



## 「大隈重信と佐賀」知られざる大隈 その③

令和3年1月10日（日）、大隈重信侯100回忌を迎えるにあたり、5回にわたって大隈重信侯に関する紹介文を連載します。

長崎の英語学校致遠館ちえんかんには、佐賀藩士だけでなく他藩からも入学してきました。目立ったところでは岩倉具視いわくらともみの二人の息子たちや、後にタカジアスターゼたかみねじょうきち（胃腸薬）を創った高峰讓吉たかみねじょうきちもここで学び、大隈から英語を習ったことが印象的だった

のか、あちこちでそのことを話していたと伝えられています。

大隈が新政府に出仕するきっかけになったのは、江戸幕府の崩壊に危機感を持った長崎奉行が逃げ出した後を受けて、奉行所の仕事を見事にこなしたことからでした。長崎奉行所は治安だけではなく貿易や対外交渉など、外国語が必要な

ので、英語を使いこなす大隈に仕事が集まってきました。折から九州鎮撫総督いのうえかむろに随行した井上馨いのうえかむろが、大隈の仕事ぶりを江戸の木戸孝允たかよしにつぶさに伝え、これが明治政府で活躍するきっかけだったようです。（続く）

（大隈重信記念館館長

江口直明）  
えぐち なおあき



▲佐賀県立致遠館高等学校に寄贈された致遠館の鬼瓦